

## 参考資料 1

# 「レクリエーション・インストラクター」認定方針について

### 【ディプロマ・ポリシー】

公益財団法人日本レクリエーション協会が認定する「レクリエーション・インストラクター」は、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」といった、対象や目的に合わせてレクリエーション活動を企画・展開できる指導者であり、当協会が定める養成カリキュラムを満たした科目の履修者（単位修得）に対して、申請を受け付け、資格を授与する。

養成カリキュラムを満たした科目の履修によって、身につけるべき能力等は以下のとおりである。

- ア) 集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出する力
- イ) 1対1、1対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力
- ウ) 対象や支援の目的に合わせたプログラムを企画・展開する力
- エ) 既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力
- オ) 対象者の主体性や協調性を引き出す力
- カ) 福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーション活動を企画・運営する力

### 【カリキュラム・ポリシー】

上記の能力等を身につけるために、理論科目・実技科目・実習科目の3区分によって養成カリキュラムを編成する。以下に、「レクリエーション・インストラクター」の養成カリキュラムを示す。

#### 理論科目（実学習時間 15 時間以上）

科目名	科目の主なねらい
レクリエーション概論 (1.5 時間以上)	・レクリエーションの主旨（目的）と手段を理解する。 ・レクリエーション支援の目的と方法を理解する。 ・レクリエーション・インストラクターの役割を理解する。
楽しさと心の元気づくりの理論 (3 時間以上)	・レクリエーション活動がもたらす楽しさを理解する。 ・対象者によって異なる心の元気づくりの課題を理解する。 ・地域のきずなづくりにレクリエーション支援が貢献できることを理解する。
レクリエーション支援理論 (4.5 時間以上)	・ホスピタリティの根拠として、信頼関係が築かれる心理的な仕組みを理解する。 ・アイスブレイキングの根拠として、良好な集団が形成される仕組みを理解する。 ・自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法の根拠として、動機づけの心理的な仕組みを理解する。
レクリエーション支援のプログラム (6 時間以上)	・レクリエーション支援のプログラムを実施する上でのリスクマネジメントの視点と方法を理解する。 ・レクリエーション支援のプログラム立案の視点と方法を理解する。

※学則上、教育カリキュラムに位置づいた科目を設置する（複数科目も可）

※主教材として、『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』を推奨。

実技科目（実学習時間 36 時間以上）

科目名	科目の主なねらい
レクリエーション支援の方法 (12 時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信頼関係が構築される心理的な仕組みを根拠としたホスピタリティを身につける。</li> <li>・良好な集団が形成される仕組みを根拠としたアイスブレイキングを身につける。</li> <li>・動機づけの心理的な仕組みを根拠とした自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法を身に付ける。</li> </ul>
レクリエーション活動の習得 (15 時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。</li> </ul>
レクリエーション支援の実施 (9 時間以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理論科目で身に付けた根拠に基づき実技科目で習得した方法と活動を用いて、対象者と活動現場を想定したレクリエーション支援を実施し、評価し、改善する。</li> </ul>

※学則上、教育カリキュラムに位置づいた科目を設置する。

※主教材として、『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の基本の理論と方法～』を推奨。

実習科目（実学習時間 9 時間以上）

科目名	科目の主なねらい
スタッフ参加（6 時間以上）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション支援に関する実習に運営スタッフとして関わり、プログラムの計画から実施、評価まで一連の流れを経験することで実践力を身につける。</li> </ul>
事業参加（3 時間以上）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション支援を行う現場に、参加者としてかかわることで、地域において実施されているレクリエーション活動のニーズを理解する。</li> </ul>

※スタッフ参加に該当する部分については、学則上、教育カリキュラムに位置づいた科目を設置する（複数科目も可）

※事業参加については、地域において実施されている事業に 2 回以上参加する必要があります。